

【 杵築市 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語A

- ① ■「書くこと」の領域で、「手紙の構成を理解し、後付けを書く」「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」ことに課題がある。
- ② ■「読むこと」の領域で、「俳句の情景を捉える」ことに課題がある。
- ③ □「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域「漢字を読んだり書いたりすること」に関わる問題で、6問中4問が、県および全国の正答率を上回っている。

小学校：国語B

- ① ■「読むこと」の領域で、「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」こと、「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる」ことに課題がある。
- ② ■「書くこと」の領域で、「目的や意図に応じ、必要なことを整理して書く」ことに課題がある。
- ③ □「書くこと」の領域で、「目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える」ことの正答率が、全国に比べ4.4ポイント、県に比べて2.9ポイント上回っている。
- ④ □全9問中5問で、無回答率が、全国・県の両方より低くなっている。

2 具体的な改善方策

小学校：国語A

- ① ◆書く目的や意図、相手に応じ、文章の種類を選択し、文章全体の構成を考えながら適切に書く力をつける言語活動が必要である。具体的には、実際に案内状や礼状などを地域の方に出す取組などが考えられる。これらの取組は、国語科や書写の時間だけでなく、総合的な学習の時間などにおいても行われることが考えられる。また、手紙を書く際は、「前文」「本文」「末文」「後付け」といった手紙全体の構成、署名と宛名の位置関係といった手紙の形式などの知識については、形式のみを教えるのではなく、例えば、後付けの位置関係が書き手の敬意を表すことになることなども併せて教える必要がある。
- ② ◆「俳句」に関わる指導において、俳句に込めた思いなどを思い浮かべること、音読することを通して、文語の調子に親しむことができるようにすること、また、俳句について感じたことを交流することで、想像したことを広げたり深めたりすることが考えられる。
- ③ ◇既習漢字を定着させるための指導が成果となって表れていると思われる。引き続き、練習の時間を確保する工夫を行うとともに、文脈に沿って適切に漢字を選び、使う力をつけていきたい。

- ① ◆子どもたちに自分の考えを持たせた後、考えたことが、どのように共通していたり相違したりしているのかなどを明らかにしながら交流する機会を設定することが考えられる。そうすることが、自分の考えを広げたり深めたりすることにつながっていくと児童が実感できるように指導することが大切である。子どもたちが主体的に話し合う交流活動にしていくためには、設問の話し合い場面を参考にしていくことも有効である。

また、叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる際、その叙述を見つけるためには、場面の展開に沿って、登場人物の言動や心情の変化を捉えて読む必要がある。色や情景などの描写から受けるイメージを交流することなどが考えられる。物語全体を見通すことができるような学習シートを用いるなど、どの叙述に着目したのかを明確にすることができるように工夫することも考えられる。

- ② ◆目的に応じて、必要な情報を的確に取り上げる力や、条件に沿って文を書く力をつけるための指導を行っていく必要がある。
- ③ ◇言語活動を通じて、実際的な子どもたちの目的や必要に応じて、文章の構成などを考える学習がされてきていると思われる。
- ④ ◇課題に対して、あきらめずに考えたり、取り組んだりする姿勢が持てるようになってきていると思われる。

【 杵築市 】

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数A

- ①■「数と計算」の領域で「1より小さい小数をかけたときの数量関係を数直線に表すこと」に課題がある。
- ②■「数量関係」の領域で「資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めること」に課題がある。
- ③■「数と計算」の領域で「乗法の性質を用いて、小数の除法の計算の仕方を考えること」について課題がある。
- ④□「数と計算」の領域で「整数の乗法の計算」「加法と乗法の混合した整数と小数の計算」「商を分数で表す」「2つの数の最小公倍数を求める」は、全国の平均を上回っている。
- ⑤□「量と測定」の領域で「任意単位による測定についての理解」は、全国平均を上回っている。
- ⑥□「図形」の領域で「正五角形と二等辺三角形の関係」は、全国平均を上回っている。

小学校：算数B

- ①■「数量関係」の領域で「問題に示された二つの数量関係を一般化して捉えること」に課題があり、無回答率も高い。
- ②■「数と計算」の領域で「直線の数とその間の数の関係を理解すること」に課題がある。
- ③■「数量関係」の領域で「身近なものに置き換えた基準量と割合を基に比較量を求めること」に課題がある。「基準量、比較量、割合」の問題は、依然として課題がある。
- ④□「数と計算」の領域で「示された条件を基に、適切な式を立てること」「示された考えを解釈し、図に表現すること」について、全国平均を上回っている。
- ⑤□「量と測定」の領域で「飛び離れた数値を除いた場合の平均を求めること」「示された数値を基準とした場合の平均の求め方を言葉と式を用いて説明すること」について、全国平均を上回っている。
- ⑥□「数量関係」の領域で「示された資料から必要な数値を選び、解の求め方と解を言葉と式を用いて説明すること」「示された式の中の数の意味を表と関連付けながら正しく解釈し、それを言葉を用いて説明すること」について全国平均を上回っている。

2 具体的な改善方策

小学校：算数 A

- ①◆二つの数量関係を適切に捉え、数直線に表されている数量を対応させることができていないと考えられる。問題文の示された数直線に着目させ、まずは問題場面の的確に捉えさせる。その後、立式とともに数量の関係を図や数直線で視覚化させ、数量の対応関係や大小関係を捉えさせる。
- ②◆二次元表の合計欄の意味が理解できていないと考えられる。二次元表の示された数値が適切であるかどうかを確かめる方法の一つが「合計」の数値に着目することである。資料を基に、合計欄に数値を書き入れさせてから、残りの欄の二次元表の数値を考えさせ、最後に合計欄で確認させると良い。
- ③◆乗法の性質を除法の性質のちがいが理解できていないと考えられる。整数を用いて、乗数が2倍、3倍・・・となると積も2倍、3倍・・・となることを確かめ、10倍、100倍等の小数の乗法を整数の乗法に置き換えたときの積の処理の仕方を考えさせる。さらに、乗法の性質と除法の性質を比較することで、それぞれの性質の理解を深めさせる。

小学校：算数 B

- ①◆無回答率が高かったことから、二つの数量関係からきまりを見つけること、さらに、そのきまりを言葉や式を用いて一般化して表現することに課題があると考えられる。AとBの数量関係について、自分の考えを表現し伝え合う活動で「Aが～なれば、Bは～なる」等の話型で表現させ、数学的な価値に気付きやすくすること。また、「すべてに共通することはないか」等の問いかけから、具体的な数値を用いてきまりを説明させること。
- ②◆日常生活の問題の解決のために、算数が役立っていることを実感する体験活動が不足していると考えられる。教科書等に掲載されている算数での学びを日常生活とつなげた問題（例：学びをいかそう）等を丁寧に指導すること。
- ③◆基準量の「○%長い（多い）」場合や「○%短い（少ない）」場合の比較量を、図として理解することに課題があると考えられる。割合の学習指導においては、「割合の意味」「基準量・比較量・割合の関係についての理解」「百分率の理解」について、改善が求められている。これらの事項を指導する場合は、いずれの事項においても、テープ図や数直線などの図を用いて数量関係を捉えさせるようにすることが必要である。

【 杵築市 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語A

□「話す・聞く」の領域～+0.4%でほぼ全国平均並みの力はあると思われる。しかし、**7**の一では、「それ以外」の「それ」を限定できていないため、正答にたどりついていない。**7**の二も正答率が低い。これは、選択肢の文の意味が理解できていないことが原因だと考えられる。語彙力の不足によるものであろう。

■「書く」領域～-0.2%でほぼ全国平均並みである。正答率が低かったのは**5**の二。9割の生徒が正答している問題である。残りの1割は、問題文の意味や選択肢の文の意味が理解できていないと考えられる。やはり、語彙を増やす指導が必要であろう。

■「読む」領域～-1.8%でここ数年の弱点であると言える。特に**6**の二は全国に対して-4.7%であった。これは、場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解しているかどうかを問う問題で、話の展開を踏まえて、叙述の意味を捉えながら読むことができていない。比喩的表現を理解して、読み味わう読書経験が不足していると思われる。昨年度と比較すると、同程度の難易度の問題での正答率は約10%上がっている。低学力層の若干の底上げが見られる。

■「言語」領域～**9**の六の二の行書の特徴を問う問題で、-5.3%であった。行書の特徴の中でも、「省略」が理解できていない生徒が多く、「連続」という特徴に目を奪われてしまったと思われる。漢字・語句の問題は概ね全国平均より高く、昨年度と比較してものびが見られる。

□「言語」領域～古文の問題はおおむねよくできている（+0.3%）であるが、徒然草のジャンルを問う問題が-5.3%で、特に正答率が低い。基礎知識の定着に課題を残した。

□「言語」領域～文章を言い直した意図の選択問題が-0.3%であった。（昨年度の類似問題-7.8%）正答率が91.3%でほとんどの生徒が助詞の言い換えを理解できている。

□「言語」領域～漢字の書き（+9.1～18.2%）「規模」「延期」「営む」など日常生活で目にする漢字は書けている。

中学校：国語B

□「読む」領域～①の登場人物の言動の意味を考え、内容を理解しているかどうかを見る問題では、正答率86.1%で全国比+2%であった。生徒の日常に近い設定で書かれ、比較的平易な言葉を使用した文章ではかなりの読解力を発揮できる。また、①の三は表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことができるかどうかを見る問題である。正答率は50%に満たない難問であったが、全国比+3.2%と比較的高い。記述式の問題であったが、無回答率も13.4%で県・全国平均より低く、書くことへの抵抗が減っているように感じられる。

■「書く」領域～③の一の集めた情報を整理して、文章を構成することができるかどうかを見る問題で、全国比-3.4%で、情報が読み取れていないというよりも、問題文の意図と選択肢の意味が理解できていないと思われる。

■「話す聞く」領域～目的に応じて資料を効果的に活用して話すことができるかどうかを見る問題で、-2.7%であった。

2 具体的な改善方策

中学校：国語A

○表現体験を積ませる・・・昨年度の反省からスピーチやプレゼンテーション、ポスターセッション等表現活動を数多く積ませてきた。さらに実物やフリップ、モニター等音声のみでなくそれを補助するものを使いながらの説明体験によって、知識だけでなく生きて働く技能として身につけさせたい。

○読む力をつける・・・説明文に読み慣れる必要がある。特に難しい語句を含む読みづらい文章にチャレンジさせたい。しかし、長い文章を細かく読み解くのでは、国語嫌いを助長させる恐れがある。短い文章を短時間で読み、要旨をつかんだり、見出しをつけたりとといった活動が有効であると考え。また、語彙を増やす指導が急務である。選択問題に弱いのは、語彙の不足によるところが大きい。辞書を身近に置き、まめに辞書を引く機会を作り、言葉をためる学習活動が有効であろう。

○基礎基本の知識・・・文学史的な知識については、小テスト・朝学習・夕学習等の帯時間を使って定着を図りたい。

○読書体験を積ませる・・・例えば本の紹介・ブックトーク・本のショーウィンドウ・ポップ等の楽しみながら興味を持たせられる活動にここ数年意図的に取り組んできた。その成果が徐々に現れていると思われる。今後もこの方向で学習体験を増やしていきたい。

中学校：国語B

○情報の整理・・・多様な情報を集め、整理し、発信する学習経験が必要であると感じた。図書館・インターネットによる的確な情報収集や整理、相手を意識して必要な情報の取捨選択、さらにそれらを資料として有効に活用して説明する力の育成が求められている。これには膨大な準備と時間が必要であり、まず年間指導計画の見直しと整理をしていきたい。

【 杵 築 市 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学A

○市の平均正答率は65%で県に対して1P、全国に対して0.4P上回っている。

○領域別

- ・「数と式」の市正答率71.9%で県に対して0.6P、全国に対して1.5P上回っている。
- ・「関数」の市正答率60.0%で県に対して2.5P、全国に対して2.6P上回っている。
- ・「資料の活用」の市正答率59.3%で県に対して2.3P、全国に対して1.7P上回っている。
- ・「図形」の市正答率64.6%で県に対して0.5P上回っているが、全国に対して1.4P下回っている。

○観点別

- ・「数量や図形などについての知識・理解」の市正答率は62.1%で県に対して2.6P、全国に対して1.9P上回っている。
- ・「数学的な技能」の市正答率は68%と、県と同等で、全国に対して0.2P下回っている。

○問題別

- ・設問36問中、県・全国と比較して正答率がどちらも上回っているのは18問、どちらも下回っているのは12問であった。
- ・全国と比較して、正答率が10P以上上回っているのは1問で、10(3)「反比例の表から比例定数を求める」問題であった。

中学校：数学B

○市の平均正答率は49%で県に対して2P、全国に対して0.9P上回っている。

○領域別

- ・「数と式」の市正答率49.4%で県に対して3.4P、全国に対して3.1P上回っている。
- ・「関数」の市正答率52.8%で県に対して4.5P、全国に対して2P上回っている。
- ・「資料の活用」の市正答率50.4%で県に対して1.5P、全国に対して1.3P上回っている。
- ・「図形」の市正答率46.6%で県に対して1.6P上回っているが、全国に対して0.5P下回っている。

○観点別

- ・「数学的な見方・考え方」の市正答率は37.4%で県に対して1.8P、全国に対して0.6P上回っている。
- ・「数学的な技能」の市正答率は62.8%で県に対して5.2P、全国に対して1.6P上回っている。
- ・「数量や図形などについての知識・理解」の市正答率は87.4%で県に対して1.5P、全国に対して2.3P上回っている。

○問題別

- ・設問15問中、県・全国と比較して正答率がどちらも上回っているのは10問、どちらも下回っているのは3問であった。

2 具体的な改善方策

中学校：数学A

- ・**3**(2)の「数量の関係を一元一次方程式で表す」問題は、文章題から式を作る問題であるが、無解答率が11.3%あり、立式ができない生徒がいるといえる。そういった層への具体的な手立てとして、「変わらない数量」が2つあることを見だし、表や図を使って立式をしやすくするよう指導する。
- ・用語の意味を理解する。**6**(1)で「錯角の意味を理解している」や**15**(1)で「同様に確からしい」ことについての正しい記述を選ぶ問題など、用語の意味があいまいなので、数学的な用語(自然数や変化の割合など)について意味をおさえなおす。

また、基礎・基本の定着のために、年間を通して小テストを継続的に実施したり、習熟の程度に応じた学習プリントを準備したりすると効果的である。また、前学年の復習も含めて補充的な指導を定期的に取り入れるとよい。

中学校：数学B

- ・「理由や方法を説明する」「証明する」といった問題の無解答率が高いことから、説明できる力が必要と言える。具体的な改善策として、以下の「説明の基本形」を活用する。
 - ① 根拠となる考えを示し、方針を明確にする。
 - ② 取り出した情報を整理し計算等を行う。
 - ③ 答えにつながる計算や説明を行う。
 - ④ 答え(結論)を導き出す。
- ・単元に一回程度、問題解決学習を扱い、説明したり発表したりするなどの言語活動を取り入れる。
- ・過去のB問題を解かせる。様々なパターンの問題やその解き方に触れることで、「こういった問題にはこのように答える」といったことを身につけさせる。

【 杵築市 】

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

学習に対する関心・意欲・態度

【国語】

質 問	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
「国語は大切である」	93.8%	93.2%	
「国語は役に立つ」	91.3%	92.7%	○
「国語が好きだ」	55.3%	64.4%	○
「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているか」	64.9%	75.1%	○
「話の組み立てを工夫しているか」	57%	59.5%	○
「自分の考えの理由がわかるように書いているか」	70%	72.4%	○

【算数】

質 問	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
「算数は大切である」	93.8%	93.7%	
「算数は役に立つ」	89.4%	90.8%	○
「算数が好きだ」	65.3%	65.3%	△
「新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思うか」	73.6%	82.4%	○
「問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるか」	82.4%	79.5%	△
「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか」	66.6%	68.7%	○
「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしているか」	81.1%	83.4%	○

学習状況

- 「友達の前で自分の考えや意見を発表するのは得意か」という質問に対して、肯定的な回答の割合は 54.1% である。県・全国よりも少し高い。
- 「友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が 96.1% である。県・全国よりも少し高い。
- 「授業のはじめにめあて・ねらいが示されていたか」という質問について、肯定的な回答の割合が 90.7% あり、県・国よりもとても高い。
- 400 字詰め原稿用紙で 2～3 枚の感想文や説明文を書くことに抵抗を感じている割合が 64.9% と抵抗感がある。

学習時間等

- 「月曜日から金曜日まで1時間以上勉強している」と回答した割合が55.1%であり、県・全国と比べて低い。
- 授業の予習をしていると回答した割合が30.2%、復習をしていると回答した割合が42.8%であり、県・全国と比べてとても低い。
- 「自分で計画を立てて勉強しているか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が68.3%であり、県・全国と比べて少し高い。
- 「読書は好きか」という質問について、肯定的な回答の割合が75.1%あるのに対して、「図書館にほとんどまたは全く行かない」と回答した割合が41%あり、県、全国と比べて高い。
- 月曜日から金曜日で、「1日に30分以上読書をする」と回答した割合が36.6%であり、県・全国と比べて少し高い。「全くしない」と回答した割合は、21.5%である。

学校生活等

- 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が83.4%であり、県・全国に比べて低い。

基本的な生活習慣

- 県・全国と比べて、特に気になる回答は見受けられない。

家庭でのコミュニケーション

- 「家の人と学将来のことについて話をしますか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が43.1%であり、県・全国と比べて少し高い。
- 「家の人と学校での出来事について話をしますか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が78.1%であり、県・全国と同じくらいである。

地域との関わり・社会に対する興味・関心

- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味があるか」（61.4%）であり、県・全国と比べて少し高い。
- 「新聞を読んでいるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が19.6%であり、県よりは高いが、全国と比べると少し低い。

自尊意識

- 「人の役に立つ人間になりたいか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が92.7%であり、県・全国と比べて少し高い。

規範意識

- 県・全国と比べて、特に気になる回答は見受けられない。

総合的な学習の時間

- 「総合的な学習の時間において自分で課題を立てて、情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が57.1%であり、県・全国と比べてとても低い。

生徒質問紙

学習に対する関心・意欲・態度

- 「国語は大切である」と感じている割合は92.2%である。「国語は役に立つ」と感じている割合が88.2%であり、県・全国と比べてとても高い。
- 国語について、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているか」(70%)、「話の組み立てを工夫しているか」(53.9%)、「自分の考えの理由がわかるように書いているか」(66.1%)。
- 「数学は大切である」と感じている割合が82.2%である。「数学は役に立つ」と感じている割合が77.4%であり、県・全国と比べて大幅に高い。「数学が好きだ」と感じている割合が、68.7%で、昨年よりも大幅に高くなっている。
- 「数学ができるようになりたいか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が94%である。
- 「数学で解き方や考え方がわかるようにノートに書いているか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が80.8%であり、県・全国と比べると少し低い。
- 数学について、「諦めずにいろいろな方法を考えるか」(72.2%)、「普段の生活の中で活用できないかを考えるか」(60.4%)、「もっと簡単に解く方法がないかを考えるか」(71.8%)、「公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしているか」(71.8%)という質問に対して、肯定的な回答の割合が、県・全国と比べて高い。昨年度より、どれも肯定的回答が高くなっている。

学習状況

- 「友達の前で自分の考えや意見を発表するのは得意か」という質問に対して、肯定的な回答の割合は48.1%であり、県よりも低い全国と比べて差はない
- 「友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が93.5%であるが、県、全国と比べて低い。
- 前学年で「自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うか」という質問について、肯定的な回答の割合が90.9%でありに対して、自分の考えを深めたり、広げたりすることがよくできている、おおよそできていると回答した割合は66.1%である。
- 「授業のはじめにめあて・ねらいが示されていたか」という質問について、肯定的な回答の割合が97.4%あるのに対して、「授業の終わりに学習を振り返る活動をよく行ったか」という質問について、肯定的な回答の割合が83.3%である。
- 400字詰め原稿用紙で2～3枚の感想文や説明文を書くことに抵抗を感じている割合が65.7%であり、県・全国よりも高い。

学習時間等

- 「月曜日から金曜日まで2時間以上勉強している」と回答した割合が33.9%であり、県・全国と比べて低い。「土日に3時間以上勉強している」と回答した割合が19.6%であり、県と比べて低い。
- 授業の予習をしていると回答した割合が18.7%、復習をしていると回答した割合が40%であり、県・全国と比べてとても低い。
- 「自分で計画を立てて勉強しているか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が47.9%であり、県・全国と比べて低い。
- 「図書館にほとんどまたは全く行かない」と回答した割合が32.6%である。しかし、「週1回以上行く」と回答した割合は21.7%であり、県・全国と比べると約3倍である。
- 月曜日から金曜日で、「1日に30分以上読書をする」と回答した割合は、27.8%である。「全くしない」と回答した割合は、35.2%である。

学校生活等

- 「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはある」と回答した割合が87.9%であり、県・全国に比べて低い。
- 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が79.6%であり、県・全国に比べて高い。

基本的生活習慣

- 月曜日から金曜日で、4時間以上テレビ・ビデオ、DVDを見たり、聞いたりしている割合が8.3%であり、県・全国と比べ低い。
- 月曜日から金曜日で、2時間以上携帯やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている割合が26.1%であり、県・全国と比べて少ない。

家庭でのコミュニケーション

- 「家の人と将来について話すことがあるか」では、61.3が肯定的な回答をしている。全国と同じであるが、県と比べて、とても低い。

地域との関わり・社会に対する興味・関心

- 「地域の行事に参加しているか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が63.6%で県・全国と比べて低い。
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が59.1%で、全国と同じであるが、県と比べて低い。
- 「新聞を読んでいるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が14.4%で県・全国と比べて同じである。ただし、テレビやインターネットのニュースはよく見ている。

自尊意識

- 「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦しているか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が70%であり、県・全国と比べて低い。
- 「自分にはよいところがあるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が70.8%であり、県・全国と同じである。

規範意識

- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と回答した割合が97%であり、県・全国と比べて高い。

総合的な学習の時間

- 「総合的な学習の時間において自分で課題を立てて、情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が57%であり、全国と比べて少ない。

2 杵築市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

(小学校)

●児童の学習に対する意欲をさらに高める

◎学習で得た知識や技能を活用する場面を生み出すための、教科横断的な発想と取組。

●読書への興味・関心をさらに伸ばす

◎司書と連携した授業における学校図書館の活用。

◎並行読書等の推進のための書籍の充実。

●地域や社会への興味・関心を伸ばす

◎地域教材や地域人材の活用だけでなく、学校から地域への貢献を意識した行事の取組。

◎地域と協力して、学校への参画の取組。

(中学校)

●児童の学習に対する意欲を高める

◎指導事項にそった基礎・基本の定着を図る。

●読書への興味・関心をさらに伸ばす

◎司書と連携した授業における学校図書館の活用。

◎生徒会活動と連携した読書の推進。

●地域や社会への興味・関心を伸ばす

◎地域教材や地域人材の活用の推進。

●安心できる学校生活の構築と自尊意識の向上

◎校内での相談体制の再確認と、SC・SSW等の活用を推進。

◎評価の本来の目的を再確認し、指導事項にそった評価を生徒にしっかり返す。

【杵 築 市】

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

指導方法・学習規律

数値は平成 28 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は全国の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「学習規律の維持を徹底したか」	100 (96.7)

指導方法

数値は平成 29 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は全国の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れたか」	100 (91.5)
「前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたか」	100 (95.8)

各教科の指導方法

【国語】

数値は平成 29 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は全国の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「発展的な学習の指導を行ったか」	100 (52.7)
「書く習慣を付ける授業を行ったか」	100 (93.4)
「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか」	100 (88.9)

【算数】

数値は平成 28 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は全国の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「実生活における事象との関連を図った授業を行ったか」	100 (75.2)

カリキュラムマネジメント

数値は平成 29 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は全国の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「P D C A サイクルを確立しているか」	100 (91.5)

中学校：学校質問紙

指導方法・学習規律

数値は平成 29 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は全国の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「学習規律の維持を徹底したか」	100 (98.0)

指導方法

数値は平成 29 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は全国の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れたか」	100 (65.4)
「前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたか」	100 (43.2)

各教科の指導方法

【国語】

数値は平成 29 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は全国の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「発展的な学習を行ったか」	100 (67.4)
「書く習慣を付ける授業を行ったか」	100 (95.8)
「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか」	100 (90.6)

【数学】

数値は平成 29 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は全国の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「実生活における事象との関連を図った授業を行ったか」	100 (70.9)

カリキュラムマネジメント

数値は平成 29 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は全国の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「PDCAサイクルを確立しているか」	66.7 (88.8)

学力向上

数値は平成 29 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は全国の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に行ったか」	66.7 (11.4)

考察

学校質問紙

- ・学習規律の維持を徹底している。
 - ・発展的な学習を意識しながら授業を行うようになってきた。
 - ・実生活における事象との関連性を考えながら授業を行うようになってきた。
 - ・カリキュラムマネジメントがまだできていない学校がある。
 - ・PDCAサイクルは機能している。
-

- ◆今後もめあて・ねらいの明確化、評価規準の作成と評価、C 評価の児童生徒へのフォローは必須である。
 - ◆児童生徒が振り返る活動が必要であり、その際に総評ではなく、めあて・ねらいにそった具体的な評価を返す必要がある。
-